プロレタリア歌曲集

同志小林多喜二
追悼記念出版

二月

1 二月二十日
2 マルクス・レーニン孫寸
3 コムミュニストのマルセーズ
4 仂く婦人の歌
5 笹刈り
6 おいらの春
7 メーデー近づく
8 万口のプロレタリア団結せよ

・P.M神奈川支部準備會編輯・発行・

5セン

贈
常中委書記局御中

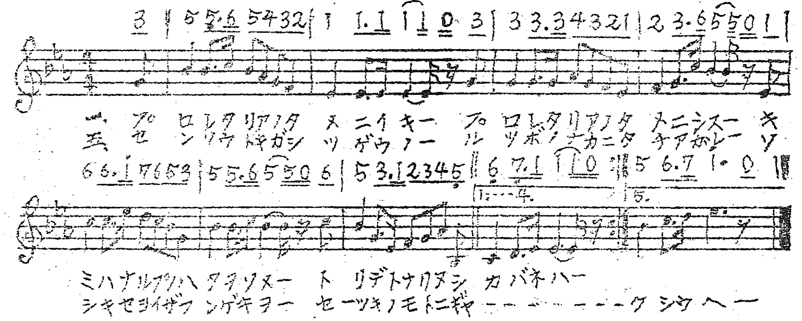
P・M神奈川支部

同志小林多喜二の
靈に捧ぐ

二月二十日

直江達雄作詩
山城静雄作曲

（荘重に、悲憤の感情をこめて。）


3 | 5 5·6 5432 | 1 1.1 1 1 0 3 | 3 3.3 4321 | 2 3·6 5 5 0 1 |
一 プ ロ レタリアノタ メ ニイ キー プ ロ レタリアノタ メニシスー キ
五 セ ン ソウトキガシ ツ ゲウ ノー ル ツ ボノナカニタ チアガレー ソ
6 6·1 7653 | 5 5·6 5 5 0 6 | 5 3.1 2345 || 6 7.1 1 1 0 || 5 6.7 1· 0 ||
1.…4.
5.
ミハナルプノハ タヲソメー ト リデトナリヌシ カバネハー
シキセヨイザフ ンゲキヲー セーツキノモトニギヤ ーー ー ーーク シウ ヘー

一
プロレタリアのために生き
プロレタリアのために死す
君はナルプの旗を染め
とりでとなりぬ死屍ば

二
二月二十日を忘るゝな
尊き靈にぬかづきて
共に誓ひし復讐を
プロレタリアの恨みの日

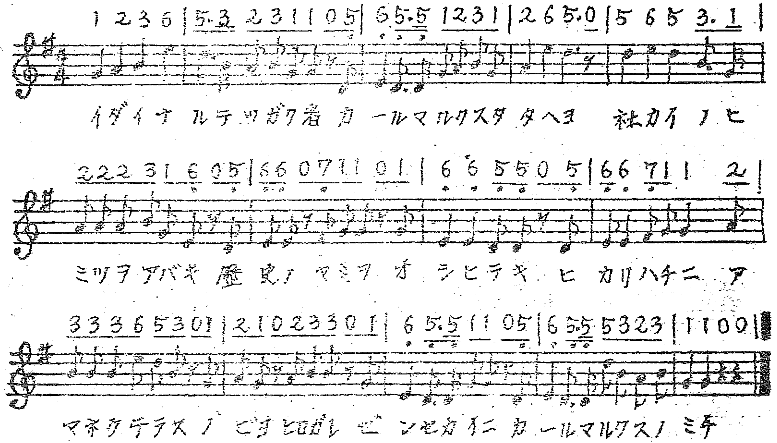
三
たゝかひの都市東京の
風なまぐさき街頭に
斗争の床かば奪はれて
君は冷めたき部署につく

四
怒り憎しみほとばしれ
敵のテロルを打倒せよ
同志の命裂かれても
その鮮血は旗を燃す

五
戦争と飢餓、失業の
るつぼの中に起ち上れ
組織せよいざ憤激を
赤旗の下に進撃へ！

マルクス。レーニン万才!

山城静雄 作詞 作曲

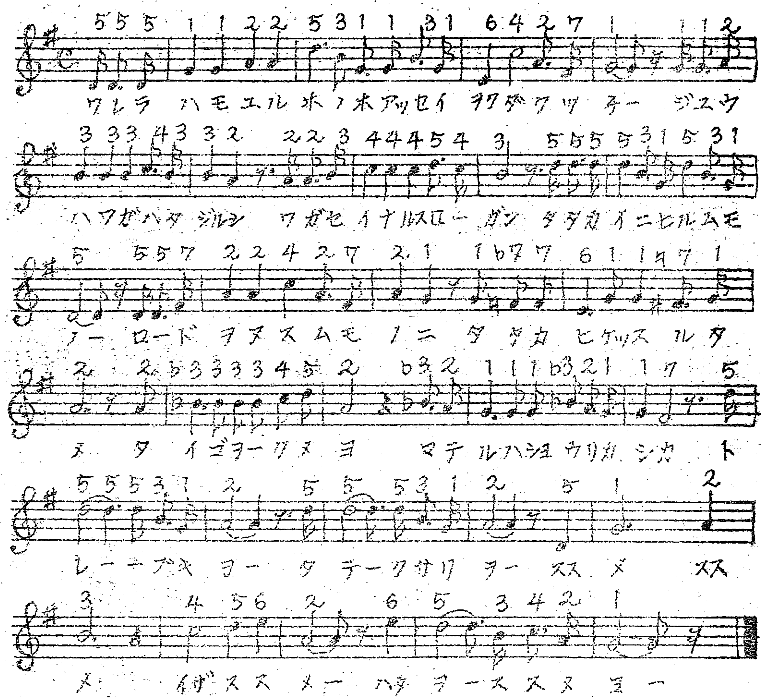

1 2 3 6 | 5 3 2 3 1 1 0 5 | 6 5 5 1 2 3 1 | 2 6 5 5 0 | 5 6 5 3 1
イダイナ ルテツガク者 カールマルクスタ タヘヨ 社カイ ノ ヒ
ミツヲアバキ 歴史ノ ヤミヲ オ シヒラキ ヒ カリハチニ ア
マネクテラス ノ ビヨ ヒロガレ ゼ ンセカイニ カールマルクスノ ミチ

一 偉大なる哲学者 カール・マルクスをたゝへよ
社会の秘密をあばき、大史の闇を押しならさ、
光は地にあまねくてらす!
伸びよ、拡がれ、全世界に。カール・マルクスの道

二 マルクスの道を行け、労口のプロレタリア
搾取の鎖を砕き、自由の世界打ち建てよ
モーターの響き、トラクターのうなりよ
勝利の歌を高く告げろ、世界の隅々まで

三 輝く鉄のレール、 進む闘争の轍
レーニンの示した道を、進む我等の足音は
高く々々空にとゞろく
燃えろ、拡がれ、赤い戦列。マルクスレーニン万才!

コムミユニストのマルセーズ

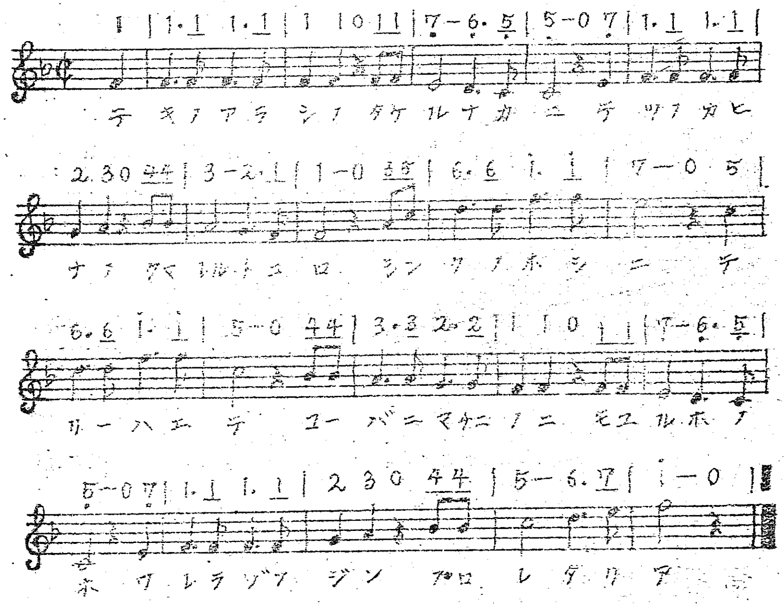

ワレラ ハモエル ホノホアッセイ ヲクダクツ チー ジユウ
ハワガハタ ジルシ ワガセ イナルスロー ガン タタカ イニヒルムモ
ノー ロード ヲヌスムモ ノニ タ タカ ヒケッス ルタ
メ タ イゴヲークメ ヨ マテルハショウリカ シカ ト
レーーブキ ヲー タ テークサリ ヲー ススメ スス
メ イザススメー ハタヲースススメ ヨー

一 我等は燃ゆる焔
圧制を砕く鎚
自由は我が旗じるし
我が聖なるスローガン
戦ひにひるむ者
労働をぬすむ者に
戦が決する為
隊伍を組めよ。
待てるは勝利か、死か
とれ!武器を、断々乎
進めよ、いざ進め
旗を進めよ!
（折返し）

二 専制の泥足もて
自由を踏みにじり
民衆の血と汗に
おごれる彼等
ブルヂョアの魔の手に
同志は戦ひたほれ
その紅の血に
世界そむるまで

仂く婦人の歌

三好十郎作詩
原　太郎作曲



テキノアラシノタケルナカニテツノカヒ
ナノクマレルトコロ シンクノホシニテ
リハエテ コーバニマチニノニモユルホノ
ホワレラゾフジンプロレタリア

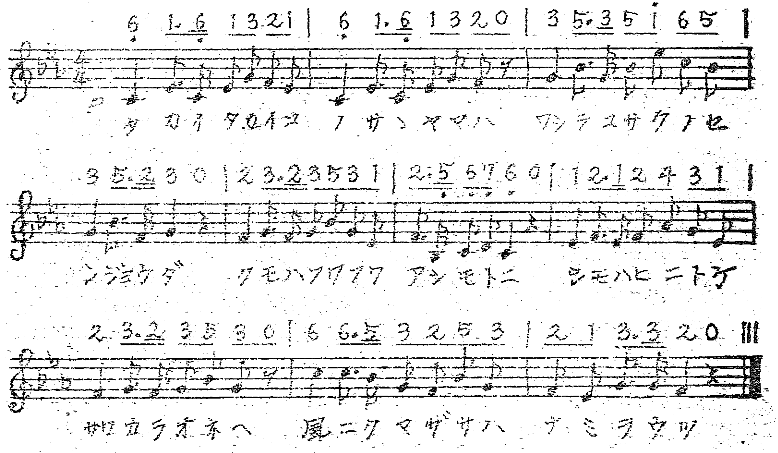
一 敵の嵐のたけるなかに
鉄の腕の組まれるところ
真紅の星に照り映えて
工場に街に野に燃ゆる焔
我等が婦人プロレタリア

二 とりで高く立てる赤旗
暁の空に叫び交す
男子とともに自由とパンへ
結べ世界の仂くをんな
起てよ婦人プロレタリア

三 同志よ圧制の鎖たゝん
怒りと憎しみなひ合せよ
プロレタリアの勝利をめざし
輝く戦列へ進め姉妹
かたまれ婦人プロレタリア

笹刈り

今泉　純原詩
山城静雄改作
和田節造作曲



タカイタカイコノサヽヤマハ ワシラコサクノセ
ンジョウダ クモハアワクアシモトニ シモハヒニトケ
サワカラオタニヘ 風ニクマザサハ ナミヲウツ

(マーチより少しおそく、拍手を入れてリボクに)

一 高い〱此の笹山は
ワシ等小作の戦場だ
雲はアワく足もとに
霜は陽にとけ澤からお谷へ
風に熊笹は波を打つ

二 笹傷だらけの手で眼を拭ひ
疲れの抜けない足を揉み
暗い五時起き番茶こんで
ボロの薄着で風吹く山へ
ザク〱笹刈り日暮れ迄

三 徳も三郎も孫七も辰も
見ろよ皆の飢餓の顔
農村失業救済だと
ぬかす役人地主の手先
畜生ワシ等はだまされぬ

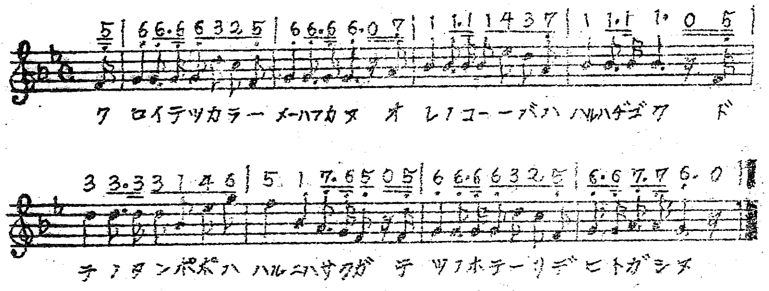
四 一ン日賃金五十銭ポッチで
何が農村救済だ
奴らワシ等をごまかして
戦争準備だ満州とって
ソヴエート攻撃やる肚だ

五 山の向ふぢや工場の中で
汗つとるな兄弟が
ワシ等小作も負けやせん
年寄り子供若い衆も女房も
固まれぶつかれ地主等に

六 單価を上げろと要求まとめ
叩きつけやうあいつらに
今夜の寄合い待遠しい
見ろよ血をふく真赤なこの手
カマは切れるぜ今に見ろ

おいらの春

高木進二作詩
安田正義作曲



クロイテツカラー メーハワカヌ オレノコーバハ ハルハヂゴク ド
テノタンポポハ ハルニハサクガ テツノホテーリデ ヒトガシヌ

一
黒い鉄から芽はわかぬ
おれの工場は春は地獄
土手のたんぽゝ[illegible]は咲くが
鉄のほてりで人が死ぬ

二
心のゆるみと奴ァ言ふが
早出居残り十九時間
手折り足折りベルトにまかれ
おれの工場の春ァ地獄

三
何処に風吹く春風が吹く
おれの耳鼻口の中
灰と小砂を吹きつけるのが
風ぢゃ春風ぢゃと誰が言ふ

四
青空なんぞも晝時にゃ見るが
癪なポーめが吠えくさる
「仕事しろしろ休まずかゝれ
青空見ようなんぞとァ分に
過ぎる」

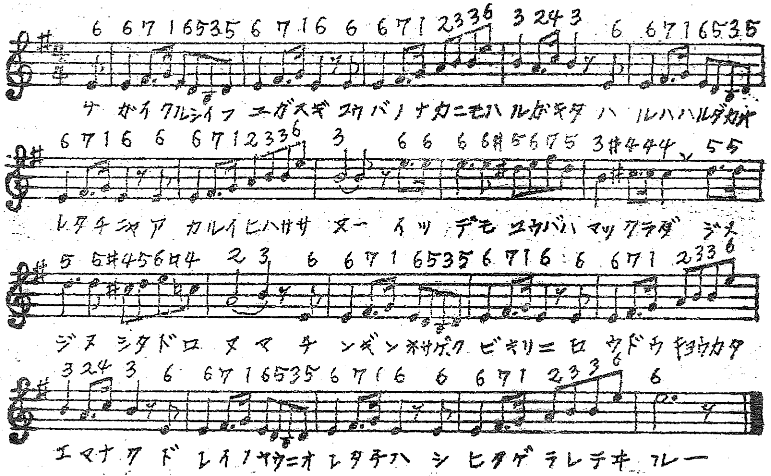
五
俺の工場にゃ煙突がない
春風の吹く日にゃ煙が霞
慣れたおいらもむせんでしまう
煙突ない工場の春ァ地獄

六
どうせおいらにゃ春ァ来ぬものと
諦めようとて諦められようか
ハンマ持つ手が男泣きに泣くよ
ハンマ可愛いやブル憎くや

七
花より團子をもぢるぢゃないが
花より団結こいつめが
花を咲かすお地獄の底に
おいらの眞赤な春の花

メーデー近づく

武者秀雄作詩
原太郎作曲



ナガイクルシイフユガスギ コウバノナカニモハルガキタ ハルハハルダガオレ
タチニャア カルイヒハササヌ イツデモコウバハマックラダ ジメ
ジメシタドロヌマ チンギンネサゲクビキリニロウドウキョウカタ
エマナクドレイノヨウニオレタチハ シヒタゲラレテヰル

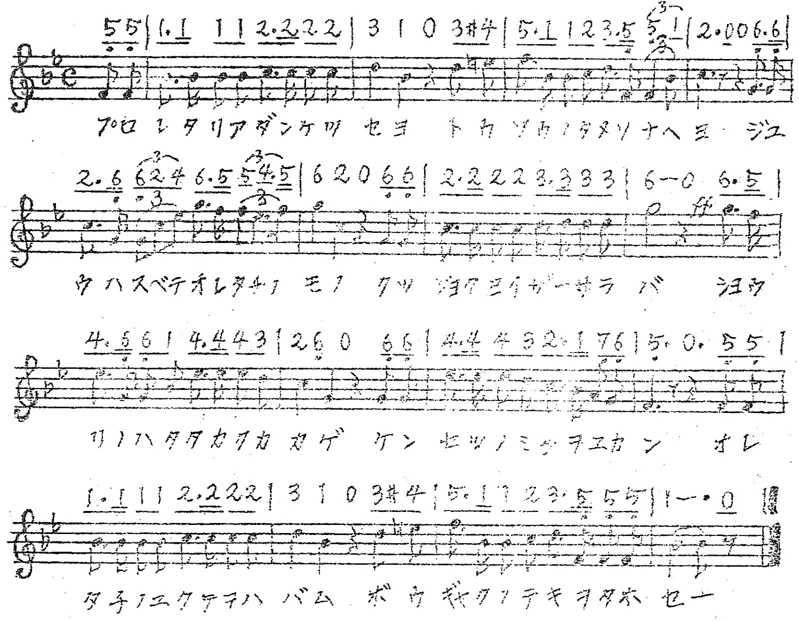
一
長い苦しい冬が過ぎ、工場の中にも春が来た
春は春だが俺達にゃ、明るい陽はさゝぬ
何時でも工場は真暗だ、ジメくした泥沼
賃金値下首切りだ、労働強化絶え間なく
ドレイのやうに俺達は、しひたげられてゐる。

二
搾取の鎖砕かるゝや、プロレタリアの春は来ぬ
不平不満をぶちまけて、仲間を揺り醒ませ
白テロ、裏切りを蹴って、ゼネラルストライキへ
工場の中は俺達の、斗争の場処城砦だ
一人残らず団結し、奴らと斗へ。

三
五月一日メーデーだ、隊伍を組んで皆行かう、
街を埋める俺達の 同志と腕を組み
暴圧の嵐をついて、階級の戦かへ
おれらの正しい要求を、掲げて進め旗の下
プロレタリアの記念日を、元気で斗へ。

万国のプロレタリア団結せよ

ベルーダエ作曲
武者秀雄譯詩


プロレタリアダンケツセヨ　トウソウノタメソナヘヨ　ジユ
ウハスベテオレタチノモノ　クツジヨクヨイザーサラバ　シヨウ
リノハタタカクカカゲ　ケンセツノミチヲユカン　オレ
タチノユクテヲハバム　ボウギヤクノテキヲタオセー

一　プロレタリア団結せよ
斗争のため備へよ
自由は凡べて俺達のもの
屈辱よいざさらば
勝利の旗高く掲げ
建設の道を行かん
俺達の行く手をはばむ
暴虐の敵を倒せ

二　工場に農村に街に
斗争の旗は進む
真理を語る星高く燃え
建設の道を示す
プロレタリア団結せよ
階級の戦いに
やがて陽は微笑み照らん
彼等の滅び行く時

三（一と同じ）

プロレタリア
歌曲集
三月

昭和八年三月二十日印刷
昭和八年三月二十五日發行
編輯發行兼印刷人　武者秀雄
横濱市中區福田町三ノ二五
發行所　横濱市中區福田町三ノ二五
日本プロレタリア音樂家同盟横濱支部

定價五錢